

最先端を親子で学ぼう 報告書



2014/01/26

場所：芝浦工業大学

フォーラムでは、後援の江東区からは、大井副区長にご来賓頂き、「2020年を見据えて子供たちに何ができるのか」というテーマで、芝浦工業大学学長、日本科学未来館、国際交流館館長からご講演いただきました。また、「親子でペットボトルロケットを作ろう」では、30組の親子で、ペットボトルロケットの作成、及び、中庭での飛行実験を行いました。

最先端を親子で学ぼう 報告書

場所：芝浦工業大学

「親子でペットボトルロケットを作ろう」

午前 10 時から芝浦工業大学「Hoper's」と NPO ワーカーズコープのご協力で 30 組の親子でペットボトルロケットの作成と、飛行実験をしました。



「最先端を親子で学ぼう」フォーラム

午前 10 時半から芝浦工業大学テクノプラザにて、「最先端を親子で学ぼう」フォーラムを実施いたしました。当プログラムの趣旨や、来賓の御登壇者の講演が実施され、最後にペットボトルロケットの飛行実験を見学しました。

1. 開会の言葉 芝浦工業大学工学部建築学科 志村 秀明 教授



2. ご来賓の紹介

・ご来賓代表 江東区 副区長

大井 哲爾 様



・ほか来賓者のご紹介

3.当プログラムの概要・協議会発足にむけて

特定非営利活動法人 東京湾岸コミュニティ

浅見純一郎 理事長



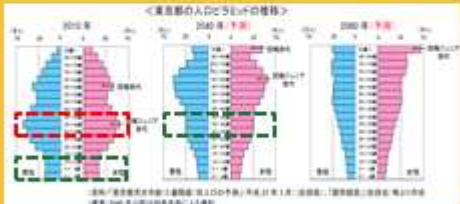
(説明資料)

企画趣旨

少子高齢化の日本を支える子どもたちへ

少子高齢化の中、30年後今の子ども達は、少ない人口で日本を支えていくことになります。そこで、東京湾岸地域の子ども達を皮切りに、大学・研究機関にご協力を得て30年後必要な教育(知育・体育・徳育)をしていく必要があると考えました。

少子高齢化の中、30年後を支える子ども



東京との試算によると、2040年以降、14歳以下の年少人口が減少し、老年人口の割合が高い“つぼ型”に変化していく想定です。2040年には、全人口に対し働き世代が少ない割合になっている見込みです。それが今の子どもたちです。

大人になって、生きていける教育 道筋を養えらる教育

国際化への対応

知育

科学技術の向上

体育

日本文化の把握

徳育

五輪選手の輩出

3

企画趣旨

地域コミュニティを結びつける

住民を中心とした地域コミュニティが脆弱になっていることが課題になっていますが、教育を小学校や中学校に任せ切るのではなく、住民や大学・企業が色々な形でサポートすることにより、地域内の連携が強固になると思います。

地域コミュニティ(住民)



4

教育内容

【概要】

地域内の学校・企業・機関を中心に、**知育・徳育・体育**に関する内容の、最先端のノウハウや情報を子どもとその保護者に対して提供していく講座を体系的にセミナーや実習形式で実施していきます。

【形式】

・セミナーや実習を含めた各テーマに関する講座

【講師】

・大学、企業、機関の先生や関係者



直近の教室

実施内容	回数	曜日	実施団体	備考
ロボットロケットを作る	1月26日	日曜日	芝浦工科大学	芝浦工科大学
目遣機を作る	1月27日	日曜日	天大洋普及プロジェクト「天ブラ」	芝浦工科大学
3Dプリンターを触ってみよう	1月28日	日曜日	東京湾岸コミュニティ	MONO
アジアを斜ってみよう	1月29日	日曜日	東京国際交流館	東京国際交流館
親子でおもてなし	1月30日	日曜日	GMen	芝浦工科大学

5

今後のスケジュール

2013年度内にかけて5つの講座を実施し、来期以降は、本格的にプログラムを実施していく予定です。



6



4. 講演(2020年を見据えた各大学・施設のビジョンや計画)

① 芝浦工業大学 学長

村上 雅人 様



② 日本科学未来館 対話プログラム開発課長

池辺 靖 様



③ 東京国際交流館 館長

米川 英樹 様



5.各団体のご紹介:

天文学普及プロジェクト「天プラ」

高梨 直紘 代表



MONO

後藤 英逸 代表





6.閉会の言葉 特定非営利活動法人東京湾岸コミュニティ 浅見純一郎 理事長

※ 以後、中庭でペットボトルロケットの飛行実験の見学。

日本経済新聞朝刊(2014年1月24日)にて当取組が紹介されました。



受付等で、“おもてなし”をしていただいた皆さま

・CAlien の皆さま

